

○事業所名	インクルー東海教室		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 8日 ～		2025年 3月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 17日 ～		2025年 3月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月実施される職員向けの運動研修を受講することで、利用児に期待出来る効果や発達に合わせた難易度の調整、介助の仕方や応用のポイント等、学ぶことが出来る為、より安全に運動が提供され、翌月への運動へ繋がられる。	運動研修に参加することで、介助の仕方やサポートする為の動きを理解することが出来る。	今後も運動研修を実施し、職員間で理解する。
2	のびのびと運動できるスペースと、療育(座学)のスペースを分けて活動することにより、子ども達が落ち着いて生活できるよう配慮している。	児発と放デイの活動スペースを分けて個別の課題等に取り組んでいる。	職員間で定期的に、利用児の様子や現状の意見交換・情報共有のミーティングを重ねながら、支援の内容の向上に繋がるよう努めている。
3	近隣にコミセンや公園があり、虫探しや散歩を楽しんでいる。	新規の利用児に伝えるためにも、避難ルートを確認しながら散歩を取り入れている。	入職した職員にも、早急に避難場所等を把握してもらえよう、実際に避難経路を歩きながら確認等する時間を確保していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	乗車スペースとされている駐車場が狭く、他事業所の車両も多い為、場合によっては駐車できず引き取り時間が遅くなってしまう事もある。	満車の際は、他のスペースの駐車も許可していただけないか小学校に相談する。	別の駐車場を使用する際の、駐車許可証発行待ちとなっているが、なかなか連絡がこない為、再度確認する。
2	家庭からは個別の課題に時間に、少しでも学校の宿題やわからない箇所を教えてほしいと要望があるが、本児は学校に教科書類をすべて置いてきてしまう。	学校に迎えに行った際、職員が教科書(ドリル)等がランドセルに入っているか確認する。	教室を出る際、学校の担任(職員)からも声をかけてもらう等、協力を依頼する。
3	利用児の気分や送迎担当の職員によって、隠れて下校してしまう。	本児の気持ちに寄り添い、事業所を楽しんでもらえるよう簡単な内容から取り入れる。	門まで、学校職員が利用児を連れて来て、当教室の職員へ引き渡してもらうよう依頼している。

公表

事業所における自己評価総括表_児童発達支援

○事業所名	インクルー東海教室		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 8日		2025年 3月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 17日		2025年 3月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月実施される職員向けの運動研修を受講することで、利用児に期待出来る効果や発達に合わせた難易度の調整、介助の仕方や応用のポイント等、学ぶことが出来る為、より安全に運動が提供され、翌月への運動へ繋がられる。	運動研修に参加することで、介助の仕方やサポートする為の動きを理解することが出来る。	今後も運動研修を実施し、職員間で理解する。
2	のびのびと運動できるスペースと、療育(座学)のスペースを分けて活動することにより、子ども達が落ち着いて生活できるよう配慮している。また、個別課題の時間は児発と放デイの利用児を分けて活動している。	個別課題の時間配分は、放デイの利用児より短く設定し、様子を見ながら小精鋭している。	個別課題は個々の発達や理解力に合わせた内容を充実させる。
3	近隣にコミセンや公園があり、虫探しや散歩を楽しんでいる。	新規の利用児に伝えるためにも、避難ルートを確認しながら散歩を取り入れている。	入職した職員にも、早急に避難場所等を把握してもらえるよう、実際に避難経路を歩きながら確認等する時間を確保していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	男性職員と女兒(1名のみ)の送迎のあり方	太田方面の送迎の際、通常より長い時間がかかる。(男性職員と女兒だけの空間に不安があると保護者が相談員に相談していた。)	できるだけ、女性職員が長距離の送迎を行い、保護者の不安を軽減できるよう努める。
2	他国籍の利用児が在籍している。保護者も含め、言葉の理解等が乏しく、連絡や伝達等に苦戦している。	繰り返しお伝えする内容のものは、ポルトガル語で持ち物や要件を記載する。	本児も認識ができるようイラストをつける。
3			